



## ◇今回は、小学校教諭の天野友乃さん（愛知教育大学教育学部）のレポートです！

私は、現在、名古屋市の小学校教諭として働いています。関高校を卒業後、教員になるための王道コースとも言える、教育大学の教員養成コースに進学しました。しかし、実を言うと、今の職業に就こうと本当の意味で決心できたのは、大学3年生のときでした。昔から「先生」という仕事に興味はあったものの、得意な科目があるわけでもなく、人前で話すことが得意ではなかった私は、「先生」は本当に自分に向いている仕事なのだろうか…とギリギリまで進路を決めきれずにいました。

### ◎ 部活動に打ち込んだ高校時代

そろそろ将来のことを考えなくてはいけないと思いつつも、なかなか進路選択に身が入らなかった高校時代は、女子バレー部に所属し、部活中心の生活をしていました。高校時代に悩んだことを思い返してみても、部活のことしか思い出せないくらいに、バレーに熱中していました。ときには仲間とぶつかりながら目標に向かって仲間と頑張る時間は、今思い返してみると、今の自分を創っている大切な時間だったなと思います。私が在籍していたころの関高バレー部は、身長165cm～170cmの選手が何人もおり、身長が低い私は、リベロを任されていました。この頃は、自分が必死で繋いだボールで誰かがスパイクを決める瞬間が、楽しくて楽しくてしょうがなかったです。

ただし、もちろん、進学を目指す関高校で、勉強そっちのけで部活をするわけにはいきません。私は、大好きな部活を理由に成績を落としてたまるものかと、テストで良い点をキープするためにこつこつ努力を続けていました。塾にこそ通っていませんでしたが、40分間の登校時には、一緒に登校するバレー部の仲間と英単語の問題を出しながら自転車を漕ぎ、苦手な化学や物理、数学は、自分でも理解できたと思えるまで先生の所に通いました。

部活の疲れから、家に帰ってすぐに寝てしまうような日も多々ありましたが、負けず嫌いな性格も影響し、3年間、なんとか頑張り切ることができました。むしろ、部活をやっていたからこそ部活の時間が息抜きになり、勉強も頑張れたと思います。また、バレー部では自分と同じ条件の中で勉強を頑張る仲間と囲まれ、いい刺激をもらうことができました。



### ◎ ラクロス部への入部

大学に入ると、8年間続けていたバレーを辞め、女子ラクロス部に入部しました。「バレーも続けたい

けど、大学ではなにか新しいことにも挑戦したい」と思っていたので、バレー部も含め様々なサークルや部活を見学、体験しました。ラクロスは全く経験がなく、ルールも分かりませんでしたが、先輩の話聞いて「こんなに魅力的な部活はない！」と感じ、入部を決めました。(こんなこともあるので、サークルや部活に興味がある人は、納得いくまで色々見てから決めることをおすすめします。)

ラクロスは、「クロス」と呼ばれる網の付いたスティックを使って、直径6cmのゴム製のボールを奪い合い、相手陣のゴールに入れることで得点を競うスポーツです。サッカーと同じくらいのフィールドで行いますが、アイスホッケーと同様にゴールの裏もフィールドとして使うことができます。多くの人が、ミニスカートの女の子たちがやっているスポーツ、というかわいいイメージをもっていると思いますが、



本当はそんなかわいいスポーツではありません(笑)(でも、一応、ユニホームはスカートなのでかわいいかもしれないです。)クロスやボールが顔に当たる危険性があるため、目を守るためのアイガードや、ボクシングやラグビーの選手がつけているようなマウスピースを付けてプレーをします。最初のうちは、練習をすれば、周りに心配されるくらい腕があざだらけになりましたし、雨の日は泥だらけになって試合をします。でも、そんなことも気にならないくらい、熱くなれるスポーツでもあります。

そして、ラクロスには、私が選んだ理由の一つでもある、競技人口が少なく、東海地区では大学から始める人がほとんどという特徴があります。そのため、努力次第で東海代表として海外遠征…なんてことも夢ではありません。他大の同期の子には、大学からラクロスを始めて、大学在学中に日本代表になった子もいます。この部活に入れば、今まで見たことのない世界が見えるかもしれないと思ったのが、入部の一番の理由でした。愛知教育大学のラクロス部は、近年は、東海大会決勝戦の常連校で、私の在学中には全国大会にも進出しているチームです。毎年東海代表選手を何人か輩出しており、実際に海外遠征に行って活躍している選手もたくさんいます。そんな選手が多く在籍する中での生活は、いつもとても刺激的で、高校までの自分は味わったことのない貴重な経験をすることができました。

## ◎ 人生で初めての挫折

入部を決めてからは、毎日のようにクロスを持ち、遠征費やユニホーム費など(もちろん部活以外に遊ぶお金も)を捻出するために、深夜までアルバイトをしながら、朝練、授業後の練習、授業の空きコマを使っての自主練習に取り組みました。ディフェンスとオフェンスの基本的な動きも、ゴールの裏を使った戦い方もなにも分からない状態からのスタートでしたが、いつかリーグ戦に出て活躍すること、

東海ユース代表に選ばれて、海外遠征に参加することを目標に練習に打ち込みました。その結果、東海ユース代表選手が決まる選考会では、残り50人まで選んでもらうことができました。

しかし、そこから、私の生活は大きく変わっていきます。これから勝負！というその時期に、人生で初めて、大きな怪我をしてしまったのです。東海ユースの選考中に膝の靭帯・半月板損傷、骨挫傷という診断を受け、プレーするどころか、歩くことさえできなくなりました。そして、その後、復帰を目指して1年近くリハビリを続けた末に、前十字靭帯断裂を経験しました。この怪我は手術をしても完全復帰まで1年かかると言われています。手術が決まったのは、大学3年生の春。4年生で復帰しても、夏のリーグでプレーできるレベルまでもっていけるか分からない状況でした。それまで大きな挫折を味わったことのなかった自分にとって、初めての挫折でした。ここで辞めて新たに違うことに挑戦するのか、思い描いていた姿は目指せなくてもこのままりハビリに耐えて続けていくのか、悩みに悩みました。でも最終的に私は、選手復帰を選びました。この時自分を動かしたのは、「将来の自分が後悔しないと思える方を選ぼう」という思いだけでした。ここから、膝の手術を受け、全く歩けないところからの毎日のリハビリトレーニングが始まりました。

そして、リハビリと練習を続けながら迎えた、4年生として最後のリーグ戦。ある試合で、コーチから数分の出場機会をもらいました。「攻めて来い」。コーチからのメッセージを胸に、自分が後悔しないプレーをすると心に決めて、コートに入ったその数分。夢にまで見ていた、リーグ戦での初シュートを決めることが出来たのです。この時、涙を浮かべながら飛び切りの笑顔でかけよってくる仲間たちや、全力で喜んでくれる応援席やベンチの仲間を見て、「ああ、私はこのために頑張ってきたんだ」と、思いました。この時の喜びは、一生忘れることができません。辛く長いリハビリに耐えた経験や、努力の末に仲間と喜びを分かち合えた経験は、社会人となった今でも、辛いことに立ち向かう時の糧となっています。



## ☆ 学生のみなさんに伝えたいこと

私の学生時代のように、進路を考える時期が来てもなかなか気持ちが入らず、「みんなやりたいことがはっきりしていていいなあ」と周りを羨んでいる人は、意外と多いのではないかと思います。私も、大学3年生の教育実習を経験して気持ちが固まるまで、ずっと悩み続けていました。

私は自分の経験から、そんなときは、目の前のやりたいことをとりあえずやってみることが大切だと思っています。私のように、部活に打ち込みたいとか、高校の体育祭の応援団がやりたいとか、お菓子作りをしたいとか、そんなちょっとしたことででもいいんです。その中で得た達成感、新しく人と出会って感じたこと、目標を叶えられなかった辛く悲しい経験さえ、全て将来の自分の個性に繋がり、仕事をしながら生活していく上での糧になると思います。

特に、私のような「先生」という仕事は、仕事の中でも、自分の今までの経験が全てストレートに生きてくる職業だと思っています。ラクロスを始めたことで、体育の授業はもちろん、バスケット部の顧問としても、戦術の指導ができます。小学生の時、夏休みの作品作りで、刺しゅうやミシンを経験していたことで、家庭科の作品作りではお手本を見せたり、うまく作業するコツを伝えたりすることができます。自分が夢を諦め、挫折した経験をしたことで、同じような境遇にいる子に共感し、前を向けるように声をかけてあげることができます。弟がいる自分の立場から、勉強よりも運動が好きだった自分の立場から、同じような子どもをもつ親御さんの相談にのることができます。私は、実はちょっと懂れていた留学もせず、東海地方から出ることもなく、結局、狭い世界で生きてきたなとは思いますが、今までのどんな経験も全て、この仕事をする上での一種の武器になっているな、ということを感じています。このことは、きっと、先生の仕事だけではなく、他の職業でも共通することなのではないでしょうか。

ここまで、やりたいことをとにかくやってみることが大切、ということ伝えてきました。ただし、もう一つ大切なことは、就きたい仕事が見つかった時のために、勉強だけはコツコツやり続けておくことだと思います。（正直言うと、私は、大学時代にもう少しいろいろな分野を真面目に勉強しておけばよかったな、と反省しています。）今は目的が見えなくても、やる気が出なくても、勉強しておいて裏切られることはありません。勉強で学んだことも、嫌いな勉強を頑張った経験すらも、いつか自分が生活する上での武器になるはずです。やりたい事との両立を図りながら、時には失敗しながら、頑張っていってほしいと思います。

社会人 2 年目の私も、日々学ぶことばかりです。周りの方々に色々なアドバイスをもらい、見て学びながら、日々子どもたちと奮闘しています。うまくいかないことばかりで落ち込むことは多いですが、子どもの笑顔、頑張り、そして成長に元気づけられ、日々笑顔で働いています。大学 3 年生まで悩んで選んだ結果、やりがいを感じながら笑顔で過ごせるこの職に就けて、本当に良かったと思います。

学生みなさんも、将来の自分が「あの時この選択をして良かった」と思えるよう、様々なことに挑戦していってくださることを願っています。最後までお読みいただき、ありがとうございました。